

平成 30 年度事業分

地方創生推進交付金事業

上牧町子育てママ就業支援事業

女性のキャリアアップ・社会復帰モデル構築業務報告書

令和元年8月

政策調整課

目次

1. 事業の概要	1
2. 事業の目的	1
3. 女性のキャリアアップ・社会復帰プログラム	2
3-1 プログラム作成の背景	2
3-2 基礎調査の実施	3
3-3 企業の選定	10
3-4 英語力強化プログラムの内容と実施日程	11
3-5 英語力強化プログラム実施後のアンケートによる検証	13
4. 次年度に向けて ～プログラム案～	14
4-1 プログラム作成に向けての課題	14
4-2 各プログラム（案）とスケジュール	14
4-2-1 英語力強化プログラム	14
4-2-2 IT人材育成プログラム（案）	15
4-2-3 就労意欲喚起プログラム（計画）	16
4-3 全体スケジュール案	18
5. 事業実績報告	19
6. まとめ/次年度に向けて	19

1. 事業の概要

上牧町の人口は平成 17 年の 24,955 人をピークに、約 10 年の間で約 2,000 人の減少に転じている。特に合計特殊出生率は昭和 58 年から 62 年の 1.93 をピークに、平成 20 年から 24 年においては 1.09 まで下落している。そうした状況のなか、平成 27 年度に「上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した際に実施した「町民アンケート調査」では、希望する子どもの数より現在の子どもの数の方が少ない理由として、有効回答中 1 位（14.3%）に「経済的不安」が挙げられているほか、出産しやすい環境づくりにおいても「経済的な支援」が 1 位（37.6%）となっている。一方、奈良県における県外就業率 29.9%（平成 22 年国勢調査）及び女性の有業率 42.5%（平成 24 年就業構造基本調査）はともに全国最下位の水準であり、上牧町における県外就業率は 39.0%、女性の就業率は 38.9%（平成 22 年国勢調査）となっている。さらに、通勤時間に 1 時間以上要する男性の割合は 46.5%と奈良県内で最も高いことから、町内に希望する就労環境がなく、町外に求めた場合は通勤にかかる負担により子育てとの両立が困難であることが出生率の低下に影響していると推測できる。この状況を打開し、経済的不安を軽減するため、共働きを希望する女性、とりわけ子育て期間中の女性が通勤にかかる負担を感じることなく、身近な場所で柔軟な働き方を実現できる環境を整備し、子育てを行う財政的な基盤を整えることが出生率の向上に必要である。

については、6.14 km²という限られた町域のなかで、用地の確保等を鑑みると、積極的な企業誘致が困難な上牧町の現状において、テレワークの導入・普及によって、共働きしやすい環境づくりや就労環境の改善を図りたいと考え、平成 29 年度にテレワークの導入・普及に資するワーキングスペースと託児スペース、コミュニティスペースを兼ね備えた施設を整備し、及び拠点の運営を開始したところであるが、事業拠点の規模や利用条件等により、全ての希望者の受入は難しい状況となっている。

そこで、本業務においては、事業拠点の利用者の社会復帰の促進を図るとともに、キャリアアップや社会復帰を希望する全ての育児期間中の母親を支援するため、より参加しやすい事業展開を目指すうえで必要となる事業モデル構築に向けたプログラムの作成等を行うものである。

2. 事業の目的

本事業においては、母親の子育てと仕事の両立を実現するために、子どもの就学前と就学後の 2 つの段階に合わせて展開するものである。子どもの就学前においては、就労拠点に子連れで出勤し、仕事に従事するモデル（拠点モデル）やテレワーク業務として翻訳を取り扱うことを目指した研修の実施などを通して、母親が英語スキルを身に付けつつ、母親が英語スキルの取得のため、積極的にアウトプットを行うことで、就学前の子どもへの英語に触れる機会を増やし、語学力の向上を目指すものである。子どもの就学後においても、利用者のキャリアサポートとして、スキルの向上を支援するなかで、語学力の向上については、地域の取組とも連携を図りながら支援を行っていくものである。

今年度は、はじめに子育て期間中の母親のキャリアアップ・社会復帰を実現するための基礎調査を行うことで店舗外・店舗内の母親の実態を把握する。そしてそれに対応したキャリアアップ・社会復帰モデル

構築に係るプログラムの作成を行い実行することにより、「仕事への意欲向上」「働く手段の理解」の効果が見れることで就業能力が向上し、子どもの就学前と就学後の社会復帰が期待できるものである。

当該プログラムに基づく実証実験の実施（2019 年度予定）に係る協力事業者の確保については今回、株式会社ミスキと提携することで英語研修の充実を図ることとする。

なお、事業化モデルは 3 年計画で、女性が子育てをしながら社会で活躍できるようになることを目的とし、3 年目に入る。

3. 女性のキャリアアップ・社会復帰プログラム

3-1 プログラム作成の背景

今後の人口減少に伴い、外国人労働者の人口割合も増加の傾向にあることを背景に、上牧町で行っている英語教育への取り組みと連携をとり、将来的に英語に関する受注にも対応できることを想定し英語研修をプログラムの柱とする。

民間リサーチ会社の報告によると、英語が話せないサラリーマンの平均年収に対して、英語が話せる人の平均年収は 30%の高収入¹であることが報告されている。英語が理解できることで、翻訳の仕事・英会話を含む問い合わせ対応・会議の文字起こし・書籍の校閲や編集の仕事など仕事の幅が広がり、インバウンド事業への就業対策にも繋がるのが期待できる。

また、我が国において、人手不足と言われている、情報サービス、家電・情報機器小売、放送、運輸・倉庫、建設業のうち、子育て中の母親が肉体的負荷をかけず、短時間勤務が可能で無理なく子育てとの両立を図れる業種は情報サービス（IT）分野であると考えられる。

平成 28 年 6 月の経済産業省の「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」²によると、今後 IT 人材への供給力は低下していくことが確実であり、将来的に更なる人手不足を危惧するとともに女性の IT 人材への期待が述べられている。

また、転職市場において、英語スキルは女性の転職者に有利に働き、なお 30 代が最も成功例が多いことが分かっている。本事業の対象者となる子育て中の母親は 30 代前後の年齢が最も多いことから以下の事柄を念頭に入れて、女性のキャリアアップ・プログラムを作成するものとする。

【プログラム作成における重点ポイント】

- 女性に対する英語教育の必要性
- 再就職先は IT 業界を視野にいれる

¹ http://hi.athuman.com/pdf_hi/report20130730enskill_salary.pdf

² https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/27FY/ITjinzai_report_summary.pdf

3-2 基礎調査の実施

今回、研修プログラムを実施するにあたり、自身のキャリアプランを視野に入れた場合において、スキルアップの必要性を感じているのかを理解するため、関西圏のママスクエアで働く、子育て中のスタッフ 122 名に対して以下のようなアンケートを実施した。

実施期間は平成 30 年 12 月 5 日から 7 日の 3 日間でウェブ形式による。

【パソコンスキルについて】

Q1.自身のパソコンのスキルが低いと思うか

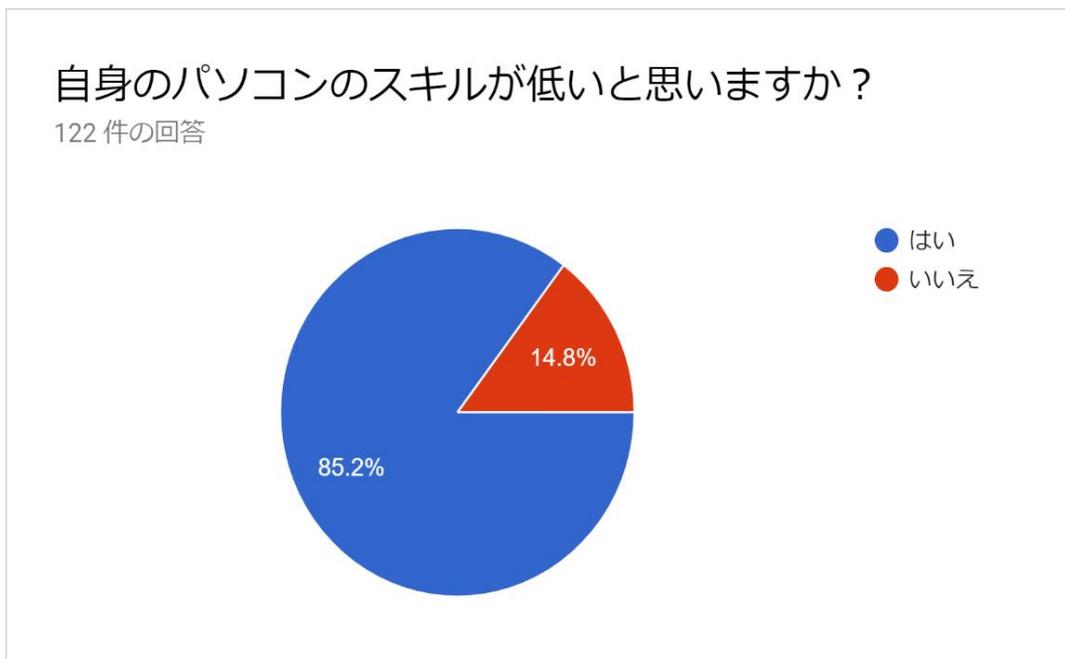


図 1 自身のパソコンスキルについて

Q2.どのようなパソコンスキルがあれば有利だと思うか

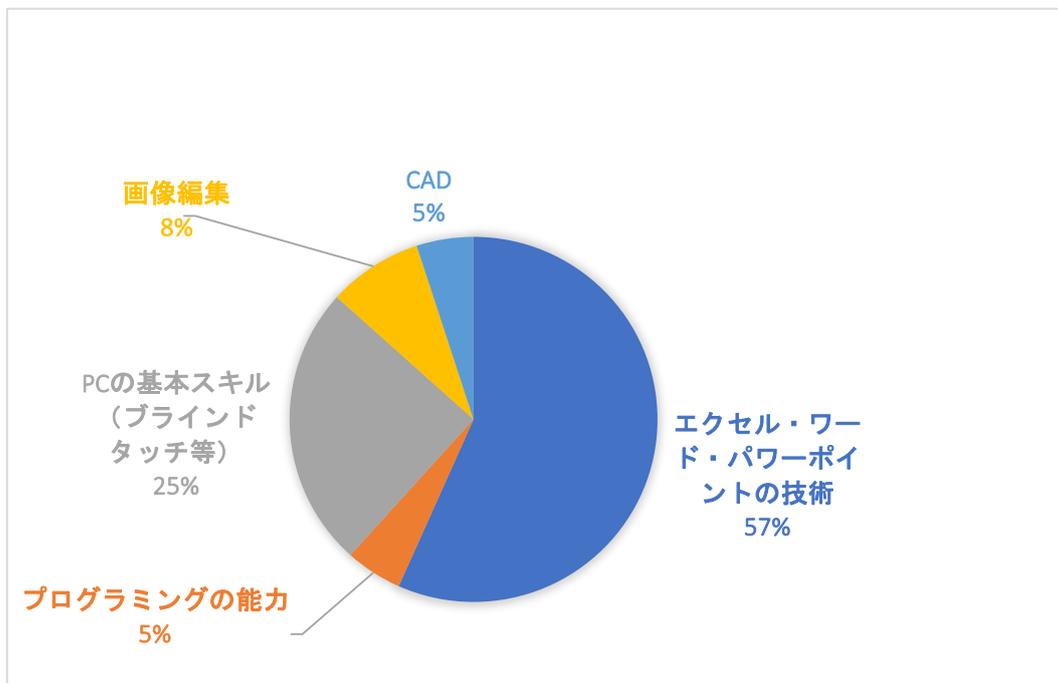


図 2 必要な PC スキルについて

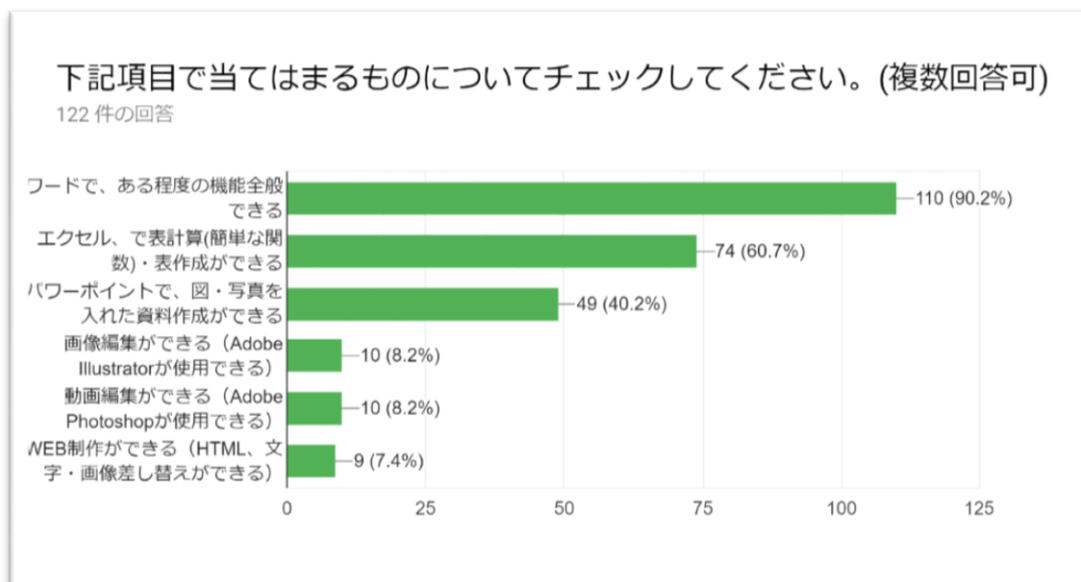


図 3 就職口が広がるための PC スキルは何か

Q3.高いパソコンスキルがあれば就職口が広がると思うか

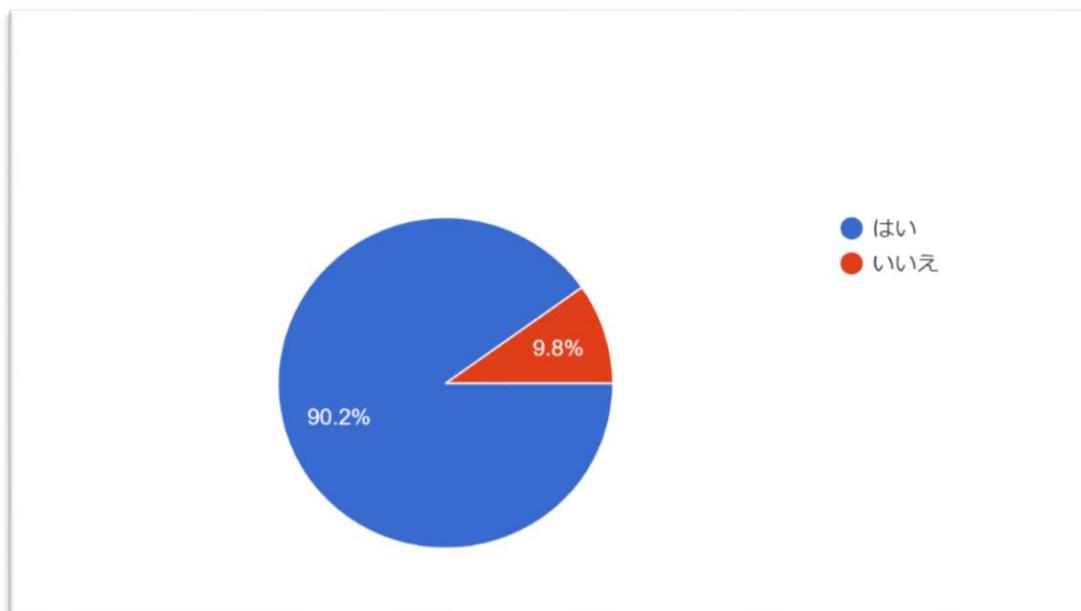


図 4 高い PC スキルがあれば就職口が広がるかについて

【英語のスキルについて】

Q1.英語・英会話に興味があるか

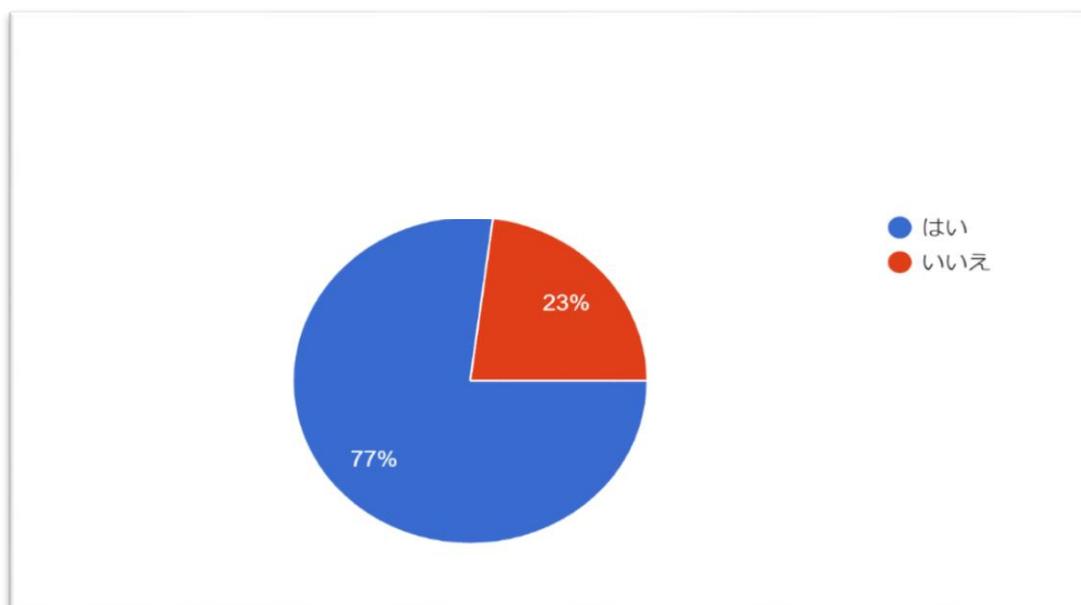


図 5 英語・英会話に興味があるかについて

Q2.現在の英語のレベルについて

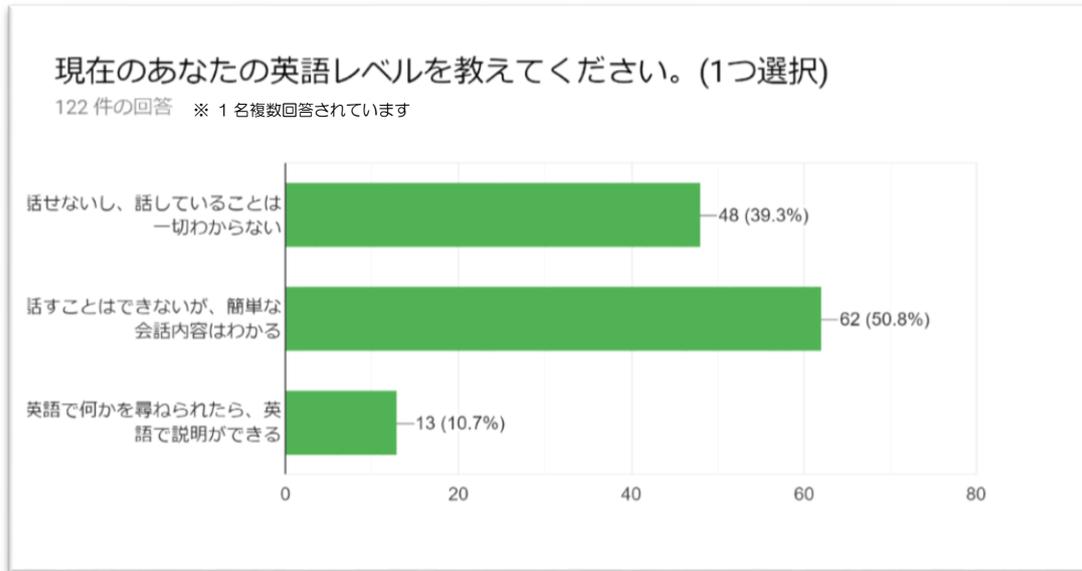


図 6 現在の英語のレベルについて

Q3.英語に関する保有資格の有無

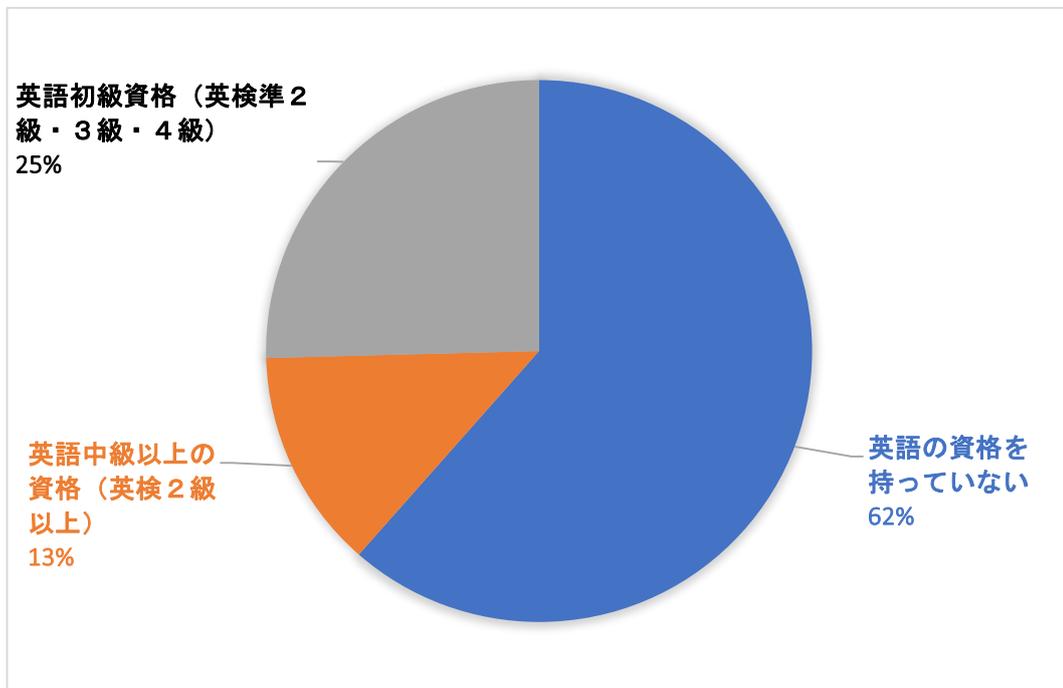


図 7 英語の保有資格について

Q4. 英語の能力があれば英語を活かした仕事に就きたいと思うか

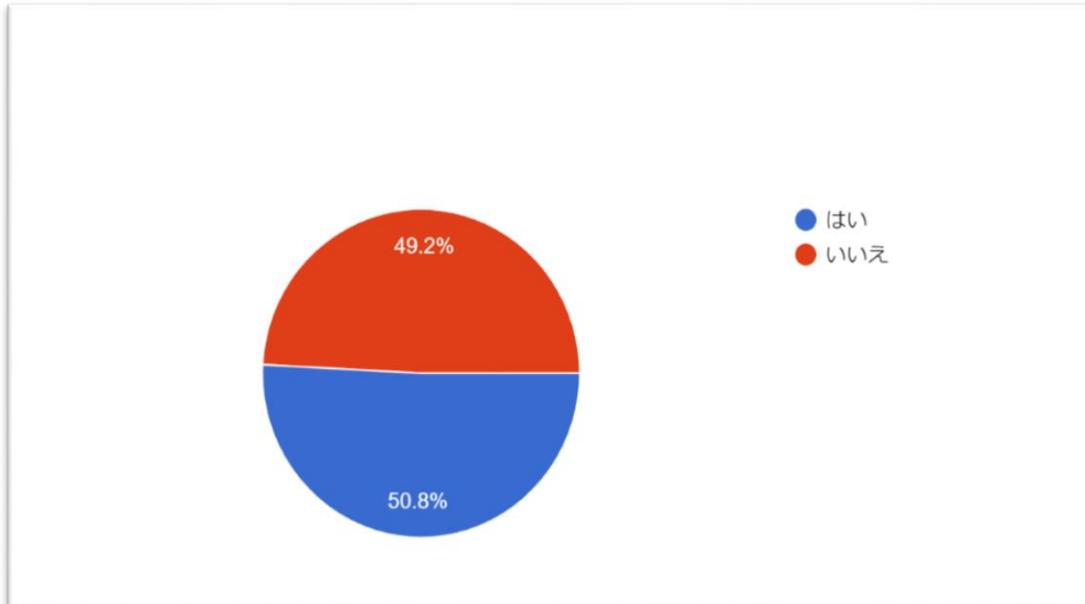


図 8 英語を使用した仕事への意欲について

Q5. 英語の能力があればどのような職種に就きたいと思うか

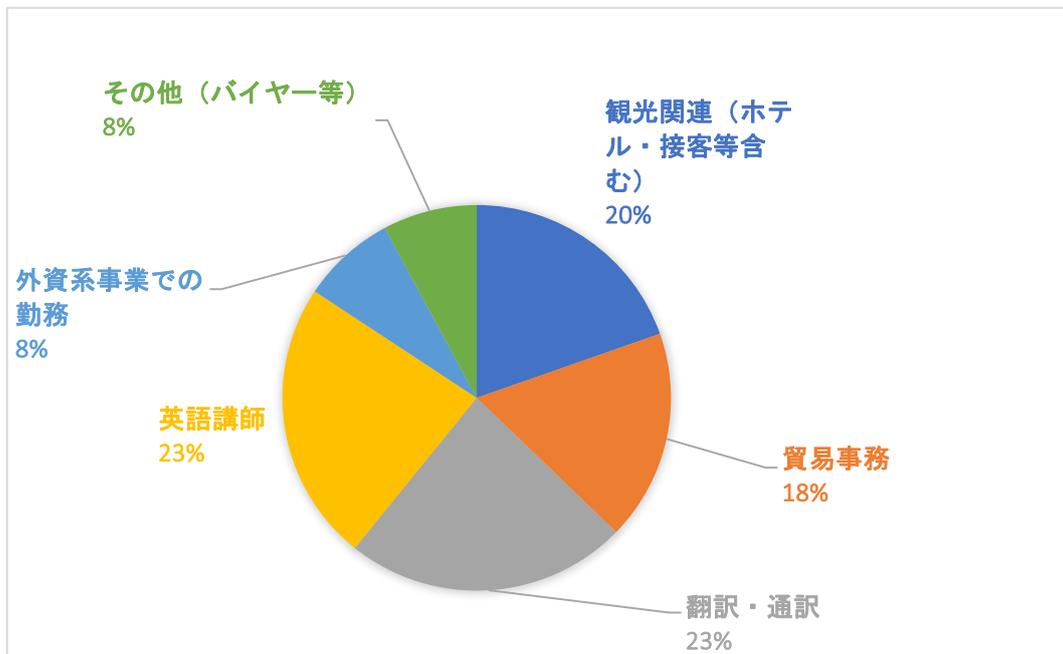


図 9 英語の能力があれば就きたい職種について

【就職活動について】

Q1. 将来フルタイムでの勤務（正社員雇用）を希望するか

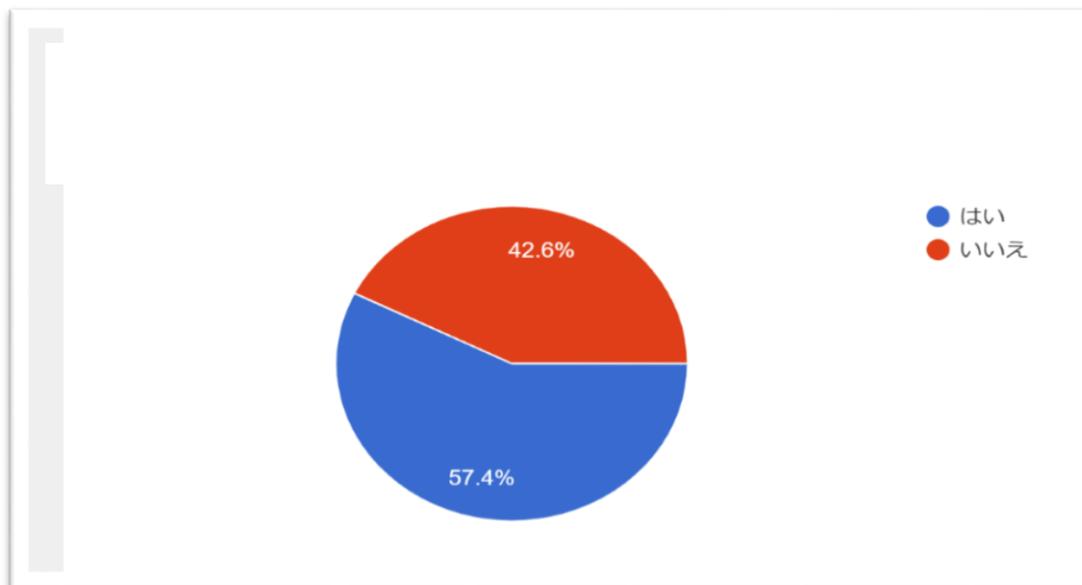


図 10 フルタイム勤務を希望するかについて

Q2. (フルタイム勤務を希望しないと答えた場合) フルタイム勤務を希望しないのはなぜか

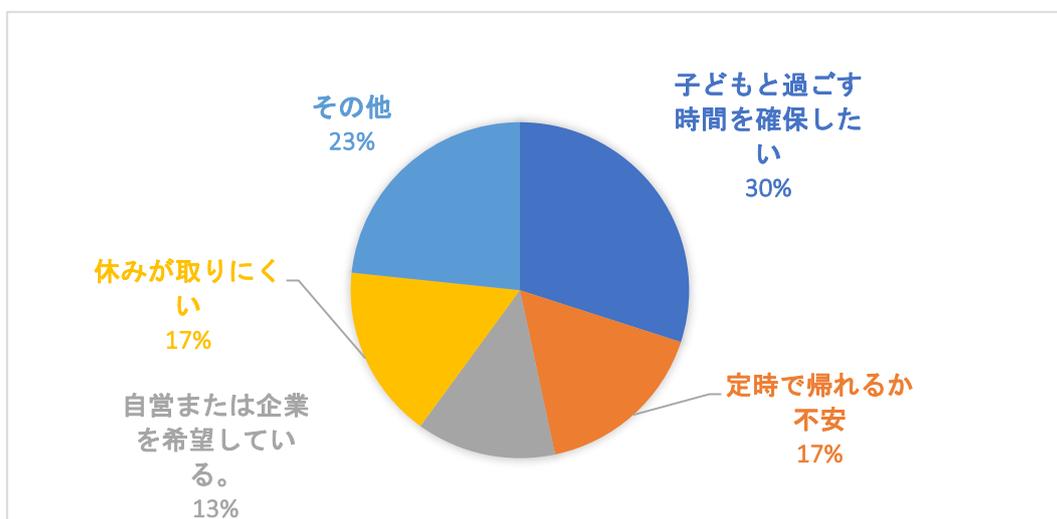


図 11 フルタイム勤務を希望しない理由について

Q3.就職活動を開始する際の不安要素

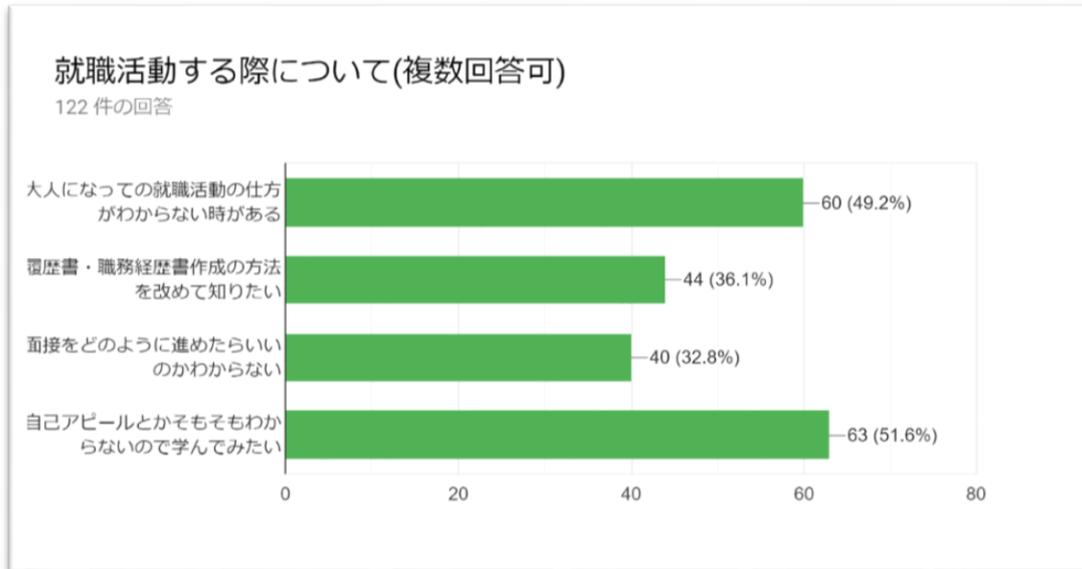


図 12 就職活動をする事について

アンケートを実施した結果、以下のことがわかった。

- IT 及び英語のスキルを上げることに高い関心がある。
- IT 及び英語のスキルは対象者によってばらつきがある。
- 自身のスキルが上がるのであれば、IT 及び英語を使用した職種に就きたいと考えている人が多い。
- 将来的には正社員として就労したいが、スキル及び就職活動に不安を感じている。

これらを踏まえ、2019 年度実施のプログラム案に組み込んでいくこととする。

3-3 企業の選定

英語力強化プログラム作成において以下の項目に対応できる企業を選定することとした。

- 母親と子どもが同じ空間で受講できること。
- 子育て中の母親は年齢も英語学習得状況及び英語使用経験も違うため、対象者の英語スキルのレベルが違って対応できるようなカリキュラムであること。
- 忙しい母親でも無理なく自宅学習ができるようスマートフォンのアプリ等を活用できること。
- 座学だけではなく体験型学習を通じて定着化を図れること。
- 民間事業者等に導入実績が豊富にあること。

上記条件を満たす企業として 株式会社ミスキイ（大阪市・間地泰正社長）を選定した。

- 株式会社ミスキイ（以下ミスキイと称する）はインターネット学習を専門とする映像作成会社と共同で、学習塾に対する教育プログラムのコンテンツを作成しており、ブランクのある働くママでも理解できるプログラムを作成してきた経験を豊富に有している。
- NHK でも取り上げられた「Genki English」という、ショー形式の小学生向け英語体験学習の技法を取り入れている講師と契約しており、子どもと一緒に母親が受講することができるプログラムを、本事業用にカスタマイズして提供することができる。

という英語学習の初心者もしくは英語学習からブランクのある母親に無理のないプログラム作成において、ミスキイの実績を評価したものである。

また本事業の今後の展開として IT 分野への就業を目的とすることにおいてもミスキイはホームページ制作・リニューアル、EC ショップサイトの制作及びアプリ開発に高い専門性を持ち、クラウド活用セミナー等を中心とした IT 関連のコンサルタント事業を幅広く展開しているため、本事業の協力企業として適していると考えられるものである。

ミスキイはコンサルタント事業として「ストレングスファインダー」を用いての強み判断を企業・個人に対して展開しており、その手法を就労意欲喚起プログラムにも導入することを予定している。

【株式会社ミスキイ 会社概要】

企業名	株式会社ミスキイ (Misky Co.,Ltd)
代表者	代表取締役社長 間地 泰正
設立	2011年2月1日
資本金	2,000,000円
会社所在地	大阪府中央区南船場1-3-17 永都ビル大阪長堀7F
業種	WEB関連サービス業 アプリ開発事業 コンサルティング事業

3-4 英語力強化プログラムの内容と実施日程

研修プログラムは以下の内容で表01の日程で実施した。

【英語力強化プログラム概要】

ジャンル	内容
英語教材動画/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・英語75講座(1本20分~30分程度)の動画から受講者個人のレベルに合わせて受講講座を選択 ・動画の中にテキスト及び演習問題があり、主に文法理解のツールとして有効である。
講師による体験型英語学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ講師による1回2時間の講座 ・音楽やワークを通して英語体験、英語に対する親しみを持って学習効果をあげる。 ・動画では学びきれないポイントをセミナー形式で実施。

【表 01 英語力強化プログラム実施日程】

	実施期間	ネイティブ講師研修実施日
phrase1	平成 31 年 2 月 4 日～8 日	平成 31 年 2 月 5 日
phrase2	平成 31 年 2 月 11 日～15 日	平成 31 年 2 月 13 日
phrase3	平成 31 年 2 月 18 日～22 日	- (テキスト学習のみ)
phrase4	平成 31 年 2 月 25 日～28 日	平成 31 年 2 月 26 日
phrase5	平成 31 年 3 月 4 日～8 日	平成 31 年 3 月 5 日
phrase6	平成 31 年 3 月 11 日～15 日	平成 31 年 3 月 12 日
phrase7	平成 31 年 3 月 18 日～22 日	平成 31 年 3 月 20 日

*外国人講師による授業風景





3-5 英語力強化プログラム実施後のアンケートによる検証

研修実施後、対象者にアンケートを実施した。

アンケート結果のうち複数名から同意見があったものを以下に列記する。

- ネイティブスピーカーと直接会話できる機会は通常ないのでモチベーションが上がった。
- ゲーム感覚で受講できたことで英語に対する親しみが湧いた。
- 文法学習では忘れていた知識を思い出すことができ、復習への意欲が出た。
- 会話のテストにおいては前回よりも成績が上がり、自分の英語力の向上を実感した。

なお、以下のようなネガティブな回答もあった。

- ネイティブ講師が側にいない時は自分の発音が正しいかわからない。
- 復習することの必要性を感じるが、自宅ではなかなか復習の時間がとれない。

上記の結果から、受講者が2か月間の研修の間に英語に対する親しみが増し、英語習得への意欲向上につながったことは明らかである。英語学習においては反復練習等の復習と継続が重要であるので、次年度も継続して実施していく。

4. 次年度に向けて ～プログラム案～

4-1 プログラム作成に向けての課題

前述の通り、上牧町の女性の就業率は全国水準よりも低いことは明らかであるが、ママスクエア上牧店において、上牧町在住のスタッフの割合が50%に満たず、他のママスクエア各店にくらべても低い数値となっている。

また妊娠・出産のために退職するスタッフの代わりのスタッフが、他店と同じように募集をかけても応募者が少ないという現状もあり、ママスクエアで勤務しているスタッフ以外の、働く意欲がある子育て中の女性を発掘し、教育・育成することで上牧町の女性の就業率を増やしていく必要があると考えられる。

そこで 次年度においては、店舗内のスタッフだけではなく、店舗外の当該事業の対象者となる女性に対しても、チラシ・ホームページ等で告知し、育成・支援をしていくものとする。

今回のプログラムは、ママスクエアで業務を担う可能性がある、上牧町在住の人材を育てたいという意図もあり、マンツーマン指導を含めた寄り添い型の研修に重点をおき、お互いのコミュニケーションを高める効果も狙うために、10名程度の対象人数とする。

また、実施場所については ママスクエア上牧店もしくは同じアピタ西大和 2階のささゆりルームを予定している。

これらを踏まえて、2019年度は後述のとおり、研修プログラムを提案するものとする。

4-2 各プログラム（案）とスケジュール

4-2-1 英語力強化プログラム

英語力強化プログラムは、本年度実施のプログラムにおける効果を評価し、プログラムの内容は変えないものとする。

2019年度実施スケジュール（案）は以下の通りを予定している。

【2019年度英語力強化プログラム スケジュール（案）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント					説明会		中間テスト				総括テスト	
訪問・打合わせ		準備		全体 スタート								
体験型学習					講師派遣 12回（各3H）							
動画研修					動画による英語学習（週2本～3本/各3.5H）							

4-2-2 IT人材育成プログラム（案）

IT 研修についてのアンケートを実施した結果、エクセル・ワード等のスキルが必要であると答えた対象者が最も多かったが、個別の意見として

- エクセル・ワード・パワーポイントは使えることが前提。
- どんな仕事にも対応するスキルがないと仕事の幅が広がらない。
- 画像編集や CAD が出来ると企業に対してアピールポイントになる。

という意見が、フルタイムでの就職に前向きな層から多数聞かれた。

また、フルタイム勤務を希望していない層のほとんどは、「家庭との両立が難しい」や「子どもとの時間を大切にしたい」などの時間的制約を理由にしていることや上牧町においては、中小企業の高齢化が進み、ホームページ開設などを希望する企業があったとしても、それを実現できるスタッフが不足しているという現実があることを踏まえて、IT 人材育成プログラムにおいては、自宅で作業をするためのスキル習得を目指し、web 制作・画像編集・動画編集スキルを向上させるためのプログラムを提案することとした。

【IT 人材育成プログラムの概要（案）】



【IT 人材育成プログラムのスケジュール（案）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント				説明会			作品発表会		作品発表会		作品発表会	
訪問・打合わせ		準備		全体スタート								
画像編集				基礎 3回 各3.5H	応用 6回 各4.5H							
動画編集							基礎 3回 各3.5H	応用 6回 各4.5H				
web制作									基礎 3回 各3.5H	応用 6回 各4.5H		

4 - 2 - 3 就労意欲喚起プログラム（計画）

今回、英語力・パソコンスキルの能力開発の研修以外に、この就労意欲喚起プログラムを提案するに至った背景として、ママスクエア上牧店のスタッフが他店のスタッフと比較した場合、モチベーション、業務完遂意識等が乏しいと社内で評価されていることが挙げられる。

原因としては管理者のリーダーシップ能力不足によるチーム力が低いと考えられる。そこでこの研修に関

しては、スタッフの仕事に向かう姿勢を考え直し、チーム力を強化する目的もあり、店舗内のスタッフにも参加を促すことを考えている。

就労意欲喚起プログラムにおいては、ブランクのある女性が就職活動に向かう際の不安要素を取り除き、再就職に向かうための心構えを指導することで、再就職に踏み出そうという意識を高めることを目的としている。そこで前述のアンケートを実施し、就職に対する意識調査を試みた結果、就職活動、特に自己アピール等の面接対応に不安を抱く対象者が多くみられた。そこで、就職面接において、自己アピールは必ずと言っていいほど要求される内容であるため、就労意欲喚起プログラムにおいては、導入時にまず「ストレングスファインダー」と呼ばれる「強み診断」のツールを使用し、自身のアピールすべき性格や特性を理解してもらうことを検討している。「ストレングスファインダー」は、「実行力」「人間関係構築力」「影響力」「戦略的思考力」のうちの項目が自分の強み・弱みなのかを「ポジティブ」「コミュニケーション」「内省」「公平」「調和」等の数十種の資質で判断するもので、自分の資質を知ることによって適性・適職を自ら導くために大変有効である。

この手法を使用したプログラムの作成はミスキが企画・実施する予定となっているが、実施時期は6月上旬頃を予定している。

また、「働くことへの意欲向上」「働く手段を知る」という内容に重点をおいた研修の実施を予定している。個別研修や、グループディスカッションを通じて、自己の就労意欲の醸成を図るのが目的であり、なお且つ店舗内スタッフが参加した場合では、お互いを理解し、同じ目的意識を共有することでチーム力が向上する効果があると考えている。

「働く意欲の向上」「働く手段の理解」等の就労意欲喚起プログラムの次年度からの導入は以下のとおり提案するものとする。

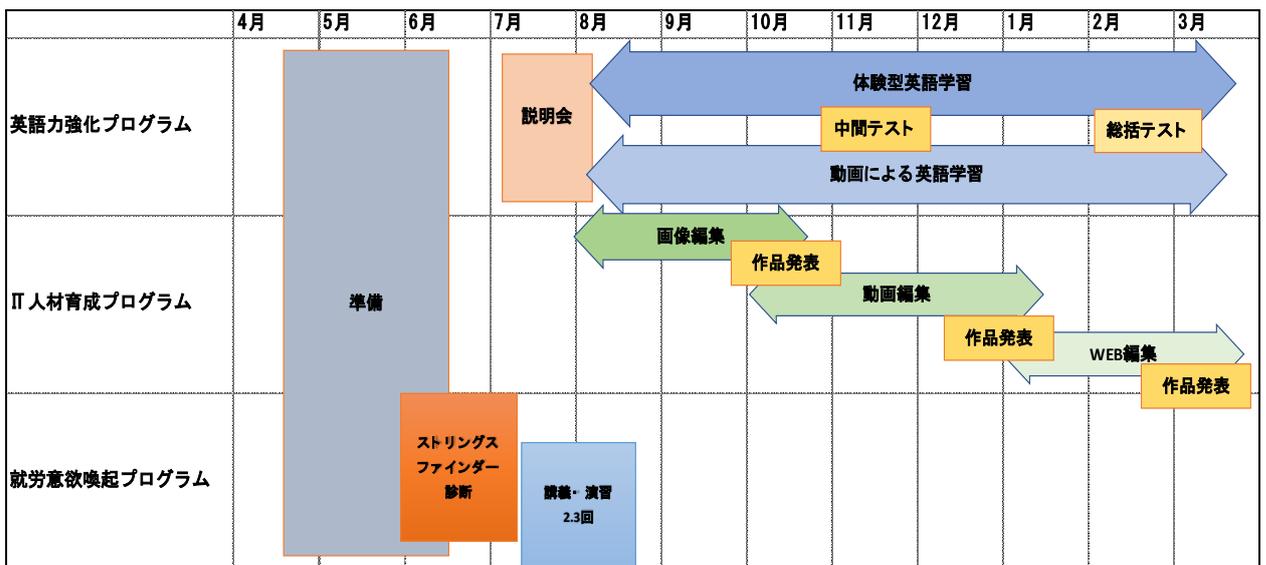
- 実際に支援の経験のある自社スタッフを講師として採用する。
- 履歴書の書き方等、具体的な内容を個別に実施することで就労意欲を喚起させる。
- 仕事への心構えや考え方を理解することによって、社会復帰後に感じるギャップ等に対する対応力を身に付ける。

【就労意欲喚起プログラム（案）】

	項目	所要時間	概要
第1部	仕事の心構え 仕事に対する考え方	3～4 時間 程度	<ul style="list-style-type: none"> ●ミスキイによるストレングスファインダーを用いたの強み判断 ●自己分析 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の印象（ペアワーク・他人の印象との違い） ・自分の長所・短所の理解 ●グループディスカッションを通じて <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守の大切さ ・「ほうれんそう」の大切さ ・人に伝えることの難しさ を導く
第2部	履歴書の書き方 職務経歴書の書き方 面接の仕方	3～4 時間 程度	<ul style="list-style-type: none"> ●ストレングスファインダーの結果より導かれた自己の適性に合った職種を想定して履歴書・職務経歴書を作成する。 ●履歴書・職務経歴書作成時の注意事項 ●面接のポイント

4-3 全体スケジュール案

【全体スケジュール案】



5. 事業実績報告

重要業績評価指標	実績
① テレワークでの子育て期間中の母親の雇用者数	18名
② 町内における出生数	118人
③ テレワーク業務における年間売上額	5,642,060円

6. まとめ/次年度に向けて

今年度より、女性のキャリアアップ・社会復帰の第一歩の試みとして「英語研修」を始めた。インプットとアウトプットを同時に行うことが習得には効果的と考え、ネイティブ講師による会話レッスンと基礎である文法学習を取り入れることにより、習得スピード向上を狙ったところ、実施レッスンにより、外国人との関りにも慣れ、ネイティブの発音・言い回しも学ぶことができたという効果は前述のアンケート結果でもあきらかである。

来年度の研修実施については、引き続き英語研修とIT研修を中心に就業に結び付くような研修及び就労意欲喚起のプログラムを予定し受講者の中には、英検やTOEIC等の資格取得を考えたいというかたもおられたので、資格取得による就労への効果についても検証していきたい。

また、上牧町においては、古事記・日本書紀の時代より農村として発展した、歴史的建造物等を豊富に有する町の特性を活かしたインバウンド事業の拡大が期待されており、英語を理解し話することができる町民の割合を増加させる必要があることから、町内企業への就職、ひいては町内の産業の活性化による人口増加につなげていくためにも、女性活躍の手段としての英語教育は大変重要であり、本事業の担う役割は大きい。

全研修を終えた受講者が実際に就職することによって、子育て中の働く女性が経済的不安を感じることなく、出産・育児に対して前向きになることで上牧町の出生率が上がっていくことを期待し、この事業を継続していくことの重要性を浸透させていきたい。